

合唱の魅力

指揮者 藤本淳也



合唱団と出会う機会に恵まれてきました。そして日本の各合唱団の活動を見ますと、ピアノ伴奏やアカペラでの演奏が多くある中で、オーケストラ伴奏の大曲に挑まれる団体が年々増え、また定着しているように思います。その中でも、この第九は突出して演奏されているのではないのでしょうか。勿論、オケ伴奏で歌われるミサやレクイエム、メサイアといった宗教曲もよく演奏されていますし、芸術的にも素晴らしいと思いますが、ベートーベンの第九は一つの宗教や偏狭な思考に縛られない、自由な広がりや普遍的なものに対する感情を最終的には合唱で表現しているため、これが日本人の感性とも共鳴し、絶えず好まれて演奏されてきた一つの要因ではないかと感じています。

今年も、長野県内で第九演奏の歴史が最も長い当演奏会に出演する機会を下さいまして、皆様感謝申し上げます。また、今回はどのような合唱の響きが生まれるのか、またオーケストラと共にどのような喜びの表現となるのかを、今から楽しみにしているつもりです。

さて、今回の合唱団には既に何度もこの第九を歌われた方、あるいは合唱は既にやっているけど初めて第九に挑戦してみようと思われた方、さらには初めて合唱にチャレンジしてみようと思われたいと目標をお持ちの団員さんがいらっしやると思います。

ただ、この第九に初めて取り組む方々にとっては、ドイツ語や譜読み、アンサンブルなどとても難しく大変ではないかと思えます。また、歌うメモリーもよくある

合唱曲とは違いますし、とても一息では歌えない伸ばしが平気で書かれていたりしますので、パートリーダーさんや日頃から指導される先生には、大変なご苦労をお掛け致します。しかしこの一方で、第九経験者にとってみれば、声楽的なさらなる鍛錬もあるかと思えますが、今回どのような気持ちで表現するのかを思案されている方も多いのではないのでしょうか。

ところで、私は普段の音楽指導をする中で、特に合唱を愛し、練習に対する熱意も他の音楽団体以上に持って臨まれている合

今回、初めて合唱に参加される方や、第九に初チャレンジの方、既に何度も歌われている方々にとって、この作品に対する思いはそれぞれ異なるかと思えます。でも、ベートーベンの第九が持つ表現の広がりや普遍性を、今回歌われる皆さんお一人お一人がそれぞれのアプロウチの中に溶け込ませるならば、きっと昨年とはまた違った演奏になると思えます。

ベートーベンが交響曲最後の締めくくりで選んだ表現手段は「合唱によるユニゾン」でした。今年の合唱では、皆さんのいろいろな思いで凝縮された最後のユニゾンによって、とれくらの音楽的な広がりを表現できるのか、そして作曲者の求めたサウンドに近づけるのか、一緒にチャレンジしていきましょう。

<プロフィール>

幼少よりヴァイオリンを北島智仁氏に、ピアノを竹村和子女史に師事。東京藝術大学指揮科卒業。安宅賞受賞。同大学院修士課程修了。これまで指揮を佐藤功太郎氏、F.トラヴィス氏、坂本和彦氏に師事。またオペラ制作の現場では星出豊氏はじめ、故若杉弘氏からの薫陶を受ける。「ブラハの春」国際指揮者コンクールのセミファイナリスト。2001年ロータリー財団奨学生としてベルリン芸術大学にてPeter Winkler氏のオペラ実習クラスでイタリアオペラを学ぶ。2010年10月には、Ensemble Interactive TOKIOのヨーロッパ公演に同行し、スロヴェニア、クロアチアでの4公演を指揮。近年、都響第九の合唱指揮者として継続して二期会合唱団をまとめる。吹奏楽の指導、審査員も担当している。東京室内歌劇場指揮会員 社団法人日本演奏連盟会員 昭和音楽大学非常勤講師 愛知県立芸術大学非常勤講師

黄金色の稲穂が風にゆれ、いよいよ収穫の秋。2段階スタートとなった合唱練習は、9月からベテランが加わりフルメンバーとなり、本番に向けてアクセル全開です。今回は前プロの合唱曲がないので、第九練習に集中して取り組みますが、お互い、楽譜、ドイツ語歌詞の意味、発音、そして第四楽章だけでなく「交響曲第九番」の理解を深め、厚み、深みのあるステージへつなげたいですね。

今回初参加の皆さん、7月からの練習の手応えはいかがでしょう。これからの練習でしっかり歌い込むことが本番への確かな自信となります。12月6日の豊かな実りはこれからにかかっています。頑張りましょう！

コスモホール佐久第九合唱団ホームページアドレス：<http://saku9.com/>

団員専用ページ：ユーザー名、パスワードはパートマネージャーまで さあ 一緒に！